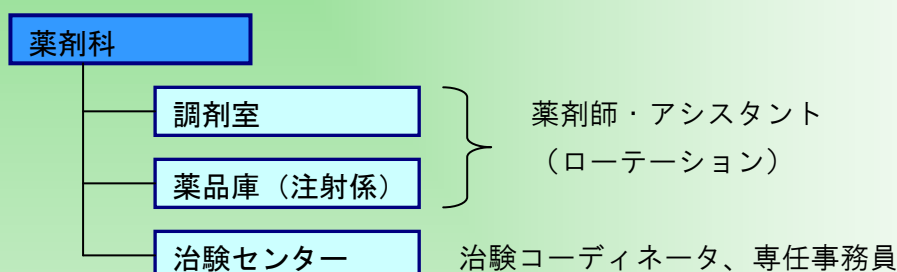


1. 函館五稜郭病院における薬剤科の役割・存在意義

函館五稜郭病院の理念である「『安心』『信頼』『満足』を患者さまと地域に」を実現するため、より質の高い薬物療法をめざして下記4点に特に力を入れています。

- ① 他職種との連携
- ② 調剤薬局との連携
- ③ 知識の向上
- ④ ニーズに応じた情報提供

2. 薬剤科の人員体制（配置状況・業務分担・組織図）



薬剤師	18名
アシスタント	7名
治験コーディネータ（看護師）	2名
事務員	1名

3. 薬剤科の人材育成方針、教育計画

[特徴]

- 現場での実践を通して学ぶ「**OJT (On the Job Training)**」
- 知識や技術の偏りをつくらない「**業務ローテーション**」
- 分からないことは先輩から学ぶ「**プリセプター制**」
- 個人ごとに明確な目標をもつ「**目標管理制度**」
- 活躍の場は無量大？「**各種委員会活動**」

いち早く病棟の雰囲気慣れるため、新人のうちから積極的に病棟へ出向き患者さま・医師・看護師等に接しています。そこで「病院で働く薬剤師としてのやりがい」を臨床活動によってこそ得られることを認識してもらいます。先輩や上司のフォローを得ながら各種委員会や職場目標に取り組みながら、薬剤師としてのスキルアップだけでなく、人間的成長も図ることができます。

4. 各業務の紹介

【基幹業務】

- **調剤**

平成 6 年 10 月から院外処方箋を発行し、現在の院外処方率はほぼ 100%です。病院内での調剤はほぼ入院処方のみとなっており、一日約 350 枚の処方箋の調剤を行っています。平成 14 年 6 月より処方オーダーシステムを導入、処方オーダーと全自動錠剤分包機を連動させたため、調剤業務の大部分が自動化されており、現在は監査業務が主体となっています。

- **注射**

平成 17 年 6 月から注射オーダーリングシステムを導入、注射オーダーは一日約 1,000 枚となっています。従来、払い出しの全てが手作業でしたが、この注射の払い出しについても、現在ではオーダーリングシステムとアンプルピッカーを連動させており、入院患者の注射薬については自動化して払い出しています。

- **無菌調剤**

無菌調剤室（クリーンベンチ、安全キャビネット）内で一日約 30 人の無菌調剤を実施しています。

外来がん化学療法	17 件／日
入院がん化学療法・高カロリー輸液	13 件／日

【臨床・ベッドサイド業務】

- **薬剤管理指導**

現在、入院患者さまに対して月 600 件の薬剤管理指導を実施しています。服薬指導支援システム「スーパーサポートシステム」という患者情報・最新の各種薬剤情報を確認できる端末を病棟へ持参し、服薬指導を行っています。このシステムの導入により新任の薬剤師でも服薬指導が可能なほか、薬剤師個々の発想による病棟活動、実績を示せる病棟活動が可能となっています。

- **チーム医療**

チーム医療の一員として積極的に臨床の場に出て、患者さまや各医療従事者と関わっています。

栄養サポートチーム（NST）	週 1 回
スキンケアチーム	月 2 回
緩和ケアチーム	週 1 回
がんボード	月 1 回
感染対策チーム	週 1 回

【業務効率化・医療の質向上のための業務】

● 持参薬管理

平成 20 年 10 月、従来の発想を転換し、入院受付カウンターに持参薬受付窓口を設置しました。入院予約の際に現在使用している薬の確認をして抗血小板薬の休薬説明を行っています。また、入院時に持参した薬を確認し、医師・看護師へ薬の情報を提供しています。本窓口の設置により、これまでは後手に回っていた持参薬把握が改善され、業務の質が飛躍的に向上しました。

● 専門医療支援

平成 18 年 4 月に PET センターが開設、PET/CT の稼動と同時に、薬剤科では検査に使用する FDG の品質管理を担当しています。また、平成 21 年 4 月に地域がん診療連携拠点病院の認定を受け、がん診療を中心とした専門性の高い医療を提供しています。医師、看護師、診療放射線技師、薬剤師、臨床検査技師、事務員等多くの職種が集まり、手術、放射線療法、化学療法、緩和医療などのがん医療に携わっています。

【その他】

● 後発品管理

先発医薬品と後発医薬品の同等性・経済性・供給状況を確認し、後発医薬品導入に取り組んでいます。

● 治験

平成 18 年 4 月から薬剤科内に治験センターを設置、治験の推進を図っています。患者さまへ適正に臨床治験が行われるよう、毎月治験審査委員会を開催し審議しています。

5. 今後必要なこと、求められる役割展望

- 各種学会や講演会等に積極的に参加し、専門的知識を向上させ、業務へ活用することで、患者さまへより質の高い薬物療法を提供します。
- 医療情勢や患者ニーズによって、病院薬剤師の果たすべき役割・責任がどんどん変化していきます。そこを察知し、持参薬管理のように、薬剤師だからこそできる医療の質向上のための取り組みを進めていきます。

6. 函館五稜郭病院で働くうえでのやりがい・魅力

- 充実した教育体制や業務ローテーション、目標管理制度等により、責任とやりがいを感じながら薬剤師としてのスキルアップや人間的成長が図れます。
- 風通しの良い組織風土により早期からチーム医療が活発で、職種の枠を超え、自らの発想に基づいた臨床活動ができます。